

入試年度	2025 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2025 年 2 月 20 日
課程	博士前期課程	研究科	国際日本学研究科	専攻・コース	国際日本学専攻 英語教育学研究領域
入試方式	一般入学試験/ 外国人留学生入学試験		試験科目	専門科目	

「出題の意図」および「解答」または「解答例」

### 【出題の意図】

本研究領域の入試では、英語教育学研究における基礎的な知識、特に第二言語習得、学習者要因、授業実践、教材・指導法などに関する主要な概念や理論を正確に理解しているか、また、それらを教育実践と関連づけて、論理的かつ批判的に自らの見解を述べることができるかどうかを評価します。

### 【解答例（採点時の観点）】

#### I. 論述問題

(1) 第二言語習得における認知的アプローチと社会文化的アプローチの特徴を比較し、それぞれの長所や短所について具体例を挙げながら論じなさい。さらに、これらのアプローチを統合することでどのような新たな学びの可能性が生まれると考えられるか、あなたの意見を述べなさい。

- ・ 認知的アプローチと社会文化的アプローチのそれぞれの特徴を明確に説明できている（例：言語習得について、前者は個人の頭の中でおこなわれる情報処理の過程を捉え、後者は社会的相互作用の中で発達する過程と捉える）。
- ・ 認知的アプローチについては、Krashen や Schmidt らの代表的理論、社会文化的アプローチについては、Vygotsky の理論について言及できている。
- ・ 両方のアプローチを活かす学びの可能性について、具体的に言及できている（例：ペア・グループ活動、タスク活動など）。

(2) 生成 AI（例：ChatGPT）を英語授業に導入することが、学習者の英語力向上や学びの多様化にどのように寄与すると考えられるか。具体的な使用場面や事例を挙げながら、その効果と可能性について論じなさい。また、導入に伴う課題や制限についても触れた上で、これらを克服するための解決策を提案しなさい。

- ・ 生成 AI を英語授業に導入することは、学習者の英語力向上や学びの多様化にどのように寄与するかを具体的に説明できている（例：個別的な学習の機会の増大、学習方法の多様化など）。
- ・ 生成 AI を導入することの問題点について認識できている（例：学習者の生成 AI への依存、学習評価の難しさなど）。
- ・ 問題点の克服方法について、具体的に説明できている（例：倫理教育や利用ルールの設定、AI を使用しない活動の導入等）

#### II. 解説問題

##### (1) PPP (Presentation-Practice-Production)

- ・ PPP がどのような指導手順であるかを適切に説明できている。
- ・ PPP の問題点についても言及している。
- ・ 教育実践との関連について触れられている。

#### (2) ウェルビーイング

- ・英語教育におけるウェルビーイングとはどういうことかを具体的に説明できている（例：幸福感、安心感、モチベーション、自信、良好な人間関係など）。
- ・教師のウェルビーイングについても言及している。
- ・教育実践との関連について触れられている。

#### (3) 自律性・有能性・関係性

- ・自律性・有能性・関係性は、Deci & Ryan によって提唱された Self-Determination Theory に基づく 3つの基本的心理要求であることを説明できている。
- ・それぞれの項目について説明できている。
- ・教育実践との関連について触れられている。

#### (4) 動機づけ方略

- ・動機づけ方略について、Dörnyei の理論に触れながら具体的に説明できている。
- ・具体的な方略について説明できている（例：良好な学習環境、学習者の興味の高揚、学習者の自信の高揚、学習目標の明確化など）。
- ・教育実践との関連について触れられている。

### 合否判定の方法及び基準

入学試験は国際日本学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。